

事務事業評価&総合計画実施計画調査シート

コード	名称		区分	コード	名称	
事業名	482	英語指導助手(ALT)活用事業	会計	01	一般会計	
基本	31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	款	10	教育費	
策			項	01	教育総務費	
			目	03	義務教育振興費	
	2	国際化や情報化等の時代に合った教育の推進	細目	102	児童生徒指導経費	
			細々目	03	英語指導助手招へい経費	
基本計画該当頁			126		行革大綱の重点事項番号	
7						
担当部課	コード	450300	評価者	古城正美		
	名称	教育部 学校教育課	氏名	連絡先	22 - 9676 (内線) 3820	

事業の計画・内容

対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
市内小中学校児童生徒 (※対象件数 児童生徒7765人)	子どもたちがネイティブな英語に触れることにより、英語に関心を持つことができ、諸外国の文化に興味を持つようになり、小中学校における英語教育及び国際理解教育を充実させることとなります。そして、自分の進路につなげて考えるようになります。
根拠法令・要綱等	
開始年度	平成 16 年度
終了年度	平成 年度
事業内容	1. 中学校のALT(英語指導助手)として、アメリカから1人、カナダから1人、ニュージーランドから1人、イギリスから1人、オーストラリアから1人を招へい。計5人のALTが、12中学校において英語科をはじめ各校の教育活動に参画しています。 2. 小学校へALTとしてオーストラリアから1名を招へい。25小学校における英語活動を支援しています。
状況変化等	中学校の英語科授業において、ALTを活用することで、本場の英語に触れることはもちろん、ALTの母国である世界各国について広く学習することができています。小学校においては、英語活動として、総合的な学習の時間にALTによる指導を行い、身近な英語を理解することや言葉や文化に興味や関心を深めることができます。小学校では5・6年生で英語活動が新しい学習指導要領で示されました。それに伴い、英語活動を支援していく環境整備の必要性が増してきています。

整備内容

1 建設用地	千円
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	
運営体制	
1 運営主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 民間委託等
委託先	
2 配置(予定)人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事業種別	継続	単独	事業類型	I	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	---	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H18	H19	H20	H21
中学校ALT配置数	人	目標 5 実績 5	目標 5 実績 5	4	4
小学校ALT配置数	人	目標 1 実績 1	目標 1 実績 1	1	2

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H18	H19	H20	H21
中学校1クラスの英語授業に入るALTの時間数	英語科の授業において、チームティーチングの形をとる。その時間数を指標としている。	時間	目標 30 実績 20	目標 30 実績 30	35	35
小学校1クラスの英語活動に入るALTの時間数	英語の学習において、チームティーチングの形をとる。その時間数を指標としている。	時間	目標 5 実績 5	目標 5 実績 4	4	20

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	中学校においては、キャリア教育の一端としても週に2回程度のALTによる学習支援を保障しなければなりません。また、新学習指導要領では、小学校で週1回の英語活動が導入されました。そこで、5・6年生は2週に1回程度のALTによる英語活動の機会を保障する必要があります。そのために、1人増員する必要があります。
有効性	3	ALT(外国語指導助手)1人が、3つの中学校を担当して英語指導の支援を行っています。小学校へは、年間を通じて1校あたり1週間程度訪問して、英語活動の支援を行っています。時間数も少ないため、十分な効果が現れていません。小学校英語が導入されるにあたり、定期的に訪問する体制を整備することにより、生きた英語を学ぶ機会を保障し、英語への興味関心を高めることができます。
達成度	3	市内12中学校においては、5人のALTが担当を決めて巡回することで、それぞれの中学生が「生きた英語に触れる」ことができています。平成20年度2学期からは、4人に減数となっています。小学校では、1校において1週間程度の配置になっているので、すべての小学生が身近な英語を理解することや言葉や文化に興味や関心を深めるまでには至っていません。各学校でより効率性のあるALTの活用を考えていますが、すべての小学生が「生きた英語に触れる」機会とはなっていません。
効率性	3	小学校英語活動を推進するため、現状として1人の小学校担当ALTで市内の小学校25校を巡回している。これを2人で分担することにより、1校あたり年間20時間程度の来校が見込めるため、子どもたちの英語活動への興味関心は急速に高まることと予想される。費用対効果は大きい。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	拡大	小学校英語活動を保障するため、小学校担当ALTの増員が必要です。中学校担当ALTも減数のため、小学校への活用は難しい状況です。

進捗状況	年度	平成18年度 決算内容			平成19年度 決算内容			平成20年度 計画内容			平成21年度 計画内容			平成22年度 計画内容			平成23年度 計画内容								
		事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額				
委託	↔	外国語指導助手給料	5	人	18,504	外国語指導助手給料	5	人	18,504	外国語指導助手給料	5	人	16,353	外国語指導助手給料	4	人	15,096	外国語指導助手給料	4	人	15,096	外国語指導助手給料	4	人	15,096
		外国語指導助手共済費	5	人	2,104	外国語指導助手共済費	5	人	2,104	外国語指導助手共済費	5	人	1,952	外国語指導助手共済費	4	人	1,802	外国語指導助手共済費	4	人	1,802	外国語指導助手共済費	4	人	1,802
		国際理解外国語指導助手委託料	1	人	4,222	国際理解外国語指導助手委託料	1	人	4,222	国際理解外国語指導助手委託料	1	人	4,131	国際理解外国語指導助手委託料	2	人	8,446	国際理解外国語指導助手委託料	2	人	8,446	国際理解外国語指導助手委託料	2	人	8,446
		住宅借上げ料	5	人	3,203	住宅借上げ料	5	人	3,203	住宅借上げ料	5	人	2,889	住宅借上げ料	4	人	2,241	住宅借上げ料	4	人	2,241	住宅借上げ料	4	人	2,241
		旅費			1,084	旅費			1,084	旅費			1,604	旅費			1,604	旅費			1,604	旅費			1,604
その他事務経費			702	その他事務経費			702	その他事務経費			633	その他事務経費			633	その他事務経費			633	その他事務経費			633		
進捗率(%)																									
事業投入人員		人件費(B)	0.3	人	2,160	人件費(B)	0.3	人	2,160	人件費(B)	0.3	人	2,160	人件費(B)	0.3	人	2,160	人件費(B)	0.3	人	2,160	人件費(B)	0.3	人	2,160
フルコスト(A)+(B)					31,979				31,979				29,722				31,982				31,982				31,982

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A)	事業費	29,819	29,819	27,562	29,822	29,822	29,822
Aの財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	その他	1,495	1,601	1,444	1,120	1,120	1,120
	一般財源	28,324	28,218	26,118	28,702	28,702	28,702
	計	29,819	29,819	27,562	29,822	29,822	29,822
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等		その他財源1,601千円は、ALT住宅賃借料本人負担金	その他財源1,444千円は、ALT住宅賃借料本人負担金	その他財源1,120千円は、ALT住宅賃借料本人負担金	その他財源1,120千円は、ALT住宅賃借料本人負担金	その他財源1,120千円は、ALT住宅賃借料本人負担金